

# DOSHISHA

Tokyo Journal 同志社東京ジャーナル

2023  
Winter  
No.130



## 同志社東京校友会 INDEX

表紙写真：リユニオン&ホームカミングデー開会式（栄光館）

- ・ 2023 新春メッセージ 横山 徹 会長
- ・ 東京校友会事務局の新体制
- ・ 「初夏の集い」で会いましょう
- ・ 特別協力会員の集い
- ・ 登録団体活動レポート・同志社東京歩こう会
- ・ 2022 リユニオン&ホームカミングデー
- ・ 善意通訳 同志社SGG Joeの会 東京&京都
- ・ 片桐家同志社五代記（四十三）
- ・ 連載コラム 今出川・京田辺四季
- ・ E S S創部 100 周年記念東京OB会
- ・ 関東同志社スポーツユニオン総会
- ・ 第7回 親睦ゴルフコンペ開催
- ・ 同志社スポーツ・バレーボール部（男子）
- ・ 幹事会・評議員会レポート
- ・ 生誕の地碑前祭のご案内
- ・ 校友会「俳壇」



2023年・新春メッセージ

同志社東京校友会 会長・横山徹

# 今年こそは、行事の本格的な再開を

東京校友会会員の皆様、あけましておめでとうございます。ご家族ともども輝かしい新年をお迎えと存じます。年始にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

あけまして  
おめでとうございます



## コロナ禍中での活動

コロナ感染症が拡大して、世の中の動きが止まってから、すでに3年が経過しようとしています。しかしながら収束とはいかず、収まってはまた感染が拡大していくという連続で、まだまだ安心・安全な世の中というわけにはいかないようです。

この間、当会では様々な制約を乗り越えて、何とか皆様とともに以前のように活動ができたところを、実施直前の度に感染拡大の波が押し寄せ、中止・延

期を余儀なくされました。

そうした中、永年東京校友会のためにご尽力いただいた代表幹事・事務局長の阪口章夫氏が昨秋に急逝されました。本当に残念でなりません。故人に対し改めてお礼を申し上げるとともに、「ご冥福をお祈りいたします。」

さて本来、校友会活動は同志社の校友が集い、人生を語り、仕事や趣味の情報交換をして、有意義な時間を共有することにあります。その観点から申し上げますと、この間、様々な企画を計画準備していただいた常任幹事、幹事、評議員、年次会の皆様、

そして関連団体の皆様には大変申し訳なく思っております。

## 「初夏の集い」は新体制で

特に、昨年の「秋の集い」の準備については、53年会中心の実行委員会が「今年こそ！」の思いでしっかり準備し、参加者の募集活動までこぎつけましたが、再び感染症の波に飲み込まれ、延期せざるを得ない事態になりました。残念でなりません。

しかし、「秋の集い」はそのまま今年の「初夏の集い」にスライドし、53年会中心の実行委員会に加えて54年会が支援する、二つの年次会が力を合わせて開催する新しい推進形態になりました。大変ありがたいことで、今後の対応にも生きてくると思います。

また、関東甲信出身の現役学生への奨学金制度も、多くの校友会会員の皆様から多大なる募金をいただき、この厳しい環境にあつて、何とか継続することができました。ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

現役世代「ビジネスパーソン」への対応は、東京キャンパスセミナールームの使用制限が続く中、集まっていたら行事を

開催するというわけにもいかず、なかなか見通しが立たない状況が続いております。今年の早い時期に何とか再開したいと考えているところです。

「特別協力会員の集い」は、安心安全に最大の配慮をしつつ、昨年11月21日に3年ぶりに学士会館で開催いたしました。当日は、植木学長、校友会中村副会長、カザフスタン大使館の公使参事官（講演）など50名以上の皆様にご参加いただき、久しぶりの再会と世界的な話題で盛会裏に終了いたしました。

このほか、恒例の校友会ゴルフ大会は、予定通り10月4日に太平洋クラブ市原コースで56名が参加して実施。久しぶりに盛り上がりました。

今年こそ、ウィズコロナから、コロナを意識しない年になればと願いつつ、2月12日新島先生「生誕の地碑前祭」での地域交流行事など、まずは様々な行事を本格的に再開して、従来のようにに校友の皆様との「集う機会」を数多くご提供させていただきたいと考えております。

これからもご協力・ご支援をよろしくお願いして、新年の挨拶とさせていただきます。



# 阪口代表幹事の逝去に伴う 事務局の新体制について

代表幹事 青木重之(78年・経)

阪口代表幹事が心血を注がれた校友会活動の事務局体制につきましては、その遺志を継いで、より効率的、かつサービス水準の向上を目指してまいります。

前号にて会員の皆様にはご報告いたしましたとおり、9月に代表幹事・事務局長の阪口章夫さん(73年・商)が急逝されました。謹んで哀悼の意を捧げますとともに、心よりお悔やみ申し上げます。

阪口さんはこれまで長きにわたり校友会活動に携わり、代表幹事・事務局長として、活動の



青木重之代表幹事

実務面を取り仕切ってこられました。残された事務局一同、その功績を引き継ぐべく決意を新たにしています。

当面の体制は、代表幹事2名が任期一杯まで、事務局長代行として、実務を引き継いでまいります。

また、新たに吉岡常任幹事に事務局に入っていただき、5名体制(青木の他に井手口・菊池・丸本・吉岡各常任幹事)を維持し、遺漏なきよう事務局運営を行ってまいります。

特にコロナ禍により、ほぼ3年にわたり、校友会の各種イベントがほとんど中止される中、校友会活動の根幹である会員の、とりわけ若手会員拡大についての施策実行など、今こそ活動の質が強く問われていると認識しております。

ようやくですが、10月の「第7回親睦ゴルフコンペ」開催を

皮切りに、11月の「特別協力会員の集い」など、対面での行事を再開いたしました。

2022年度下期は、「生誕の地碑前祭」「ビジネスパーソン向け特別講演会」なども企画してまいります。

また、今年6月に延期いたしました「初夏の集い」のご案内を含めて、より多くの登録団体の総会にも参加させていただき、新たな会員の獲得を目指してまいります。

さらに、今春よりスタートいたしました運営改革プロジェクトを推し進め、現役世代・女性会員の獲得に向けた企画の立案実施、会員の皆様へのサービス水準の向上の根幹となる新たな高機能型「会員管理システム」の導入を積極的に進めてまいります。

会員の皆様には、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 「今年こそ!」の思いを胸に 同志社東京「初夏の集い」で 会いましょう

常任幹事

片岡信雅(71年・文)



片岡信雅常任幹事

東京校友会会員の皆様、新年あけましておめでとうございませう。「集い」アドバイザー担当の片岡です。過去2年の「集い」は新型コロナウイルスの影響でやむなく中止せざるを得ず、大変残念で悔しい結果でありました。

この2年間、51年会と52年会実行委員会の方々が知恵を絞らず開催を断念せざるをえなかったこと。不完全燃焼で割り切れない気持ちを持っている方達を多く見てまいりました。実行委員の目立たないが努力の上に「集い」があることを評価していただけたら幸いです。

「集い」実行委員会を簡単に紹介しますと、実行委員長を中心に事務・企画、イベント、編集、広告・献品、動員、会場・受付のグループに分かれ、グループリーダー及び実行委員が配置され、工程表に沿いながら活動します。しかし、コロナ禍の影響で自由に集まることが出来ないため、時には常任幹事の協力を得ながら、同志社東京オフィス近くの京橋区民館を借りてZoom会議による打ち合わせや作業など、毎月活動を続けております。

53年会実行委員会は2022年9月18日の「秋の集い」を延期し、2023年6月4日(日)に開催する予定を立て、校友の皆様が満足していただける企画を意欲的に進めています。新型コロナウイルスの収束を念じつつ、今年こそ校友の皆様と喜んでお会いできる日を心待ちにしております。

# 「特別協力会員の集い」レポート 緊迫する国際情勢と カザフスタン

特別講師  
駐日カザフスタン共和国大使館公使参事官  
クルマンセイト・バトルハン氏

同志社大学と国立グミョーフ大学の包括協定締結(2021年)に尽力いただいたクルマンセイト参事官が流暢な日本語で語る、ウクライナ侵攻下でのロシアとの関係など緊迫する国際情勢――

## クルマンセイト参事官のプロフィール

1975年生まれ、47歳。横山会長とは10年以上前からというご縁で講演いただいたクルマンセイト氏。初めてカザフスタン(以後カザフ)の方にお会いしましたが、日本人に似たお顔立ちで、非常に親近感を覚ええました。氏は、母国の大学で日本



クルマンセイト・バトルハン公使参事官

語学科を卒業、京都大学に留学、国士館大学で博士号を取得、日本語は言うまでもなく関西弁もお上手で、6か国語を使われます。日系企業や国家机关などの業務委託契約を締結し、カザフスタン政府・国家机关などとの案件調査・プロジェクトコーディネーターを実施する日本専門のコンサルティング会社を設立、社長を経て、外交官に。現在はカザフと日本との貿易などにさらに尽力したいとのこと。

## カザフスタンの国際情勢

カザフは中央

アジアで最も経済的に発展している国で、国土面積も域内最大で経済も急成長。石油やウランなどの天然資源が豊富で、人口は1920万人。今年1月の騒乱は落ち着いており、外交政策では、バランス外交を実施。ウクライナ侵攻では、ロシアに対してCSOを通じた派遣要請を断っていて、双方の会談仲介を果たす準備もありつつも、ロシアを刺激しすぎない配慮をせざるを得ない面もあるようです。国民のほとんどは感情的にはウクライナを支援しているそうです。

中国との関係においては、習近平が今年9月にコロナ後初外遊でカザフを訪問、「外部勢力による中央アジアへの干渉に反対すること」を発言したことが国際社会で大変注目を集めました。ソ連邦から1991年独立後、最初にカザフを訪問した日本の

首相は小泉首相でしたが、帰国してすぐ辞任したので驚いたそうです。故安倍首相とカザフの前大統領は5〜6回も会談し、公使も通訳された縁で非常に親しみがあつたとのこと。世界で最も平和で安全な日本で、あのような事件が起きたことは衝撃的だったと語ります。

## 同志社大学に留学したかった!

今回の「特別協力会員の集い」については、日本の大学の集まりを数多く見て来た中でも、これほど仲のよい同窓会は見たいとがないというお褒めを頂戴しました。

京都大学ではなく、なぜ同志社大学に留学しなかったのか残念だ!(笑)とのコメントに加え



植木朝子学長を囲んで記念撮影(11月21日、学生会館、参加者50名)

「今日の会のことは大統領に必ず伝えるので、ぜひカザフスタンを訪問してください!」との熱いメッセージもありました。首都アスタナは、故黒川紀章氏が設計したことで有名な都市。これをご縁にいつか同志社校友一同で、カザフを訪問させていただきますでしょう。

文責/寺石明人(90年・文)





創設者の西村四郎さん

「健康のために歩こう」との西村四郎さん（48年・経）の呼びかけで2002年に発足し、この度記念すべき200回の例会を終えました。

**健康増進**

高齢になると出掛けるのがおっくうになり、体力の低下と人間関係の希薄化、老化現象が進んでいきます。月に1回、自然の中を仲間と歓談しながら5〜6km歩けば、脳と足腰の活性化が図れ、かつ歩くことの喜びを体験して普段の散歩の習慣づけが期待できます。



前会長の駒田隆之さん

幅広い年代との交流

会員の構成は男女ほぼ同数、卒業年度は53年から88年と幅広く、先輩からは知らなかった大学の歴史を、後輩からはSNSなどの最近の知識を聞け、同期の集まりでは得られない情報を得られます。

**魅力ある訪問先**

年に10回の例会の訪問先は主に東京都内ですが、近隣の神奈川県、埼玉も含まれ、普段は車で前を通っても寄つたことがない施設、また、一人では敷居の高い東大や日本女子大等の構内を仲間

と楽しむことができます。例えば、

- ・古い江戸を楽しむ
- ・新しい東京を知る
- ・六本木ヒルズ、ミッドタウン、レインボーブリッジ、高輪ゲートウェイ、渋谷ヒカリエ等々
- ・名庭園巡り
- ・新宿御苑、浜離宮、芝離宮、後樂園、六義園等々
- ・大学の学食

東京大学、慶応義塾大学、青山学院大学、日本女子大学、東京都市大学等々

いずれも当日の案内人が、事前に調べた訪問地に関わる歴史的な知識やエピソードを説明してくれるので、新鮮な興味を掻き立てられ、新たな知識として蓄積できます。

毎回の活動内容は、同志社東京校友会ホームページの「サー

連載 15

登録団体活動レポート

同志社東京歩こう会

副会長 吉川 進(68年・工)

# 開催200回を達成!

団体概要
【団体名】同志社東京歩こう会
【設立年月日】2002年5月25日
【代表者】 会長 宇野多恵子 (78年・商)
【会員数】63名
【連絡先】 piano.piano.taeko@gmail.com (会長 宇野)

クル活  
動」に掲  
載されて  
いるので  
ご覧ください。  
さい。

**縛りの無いルール**

年度初めに配布される年間の計画表を見て、自分の興味、体調、その日の天候で所定の集合場所に集まれば事前の予約なしに参加できますし、年の参加回数にも縛りはありません。

**会員大募集**

最近加入した女性会員によると、「どなたからも気さくに声を掛けていただき、非常に居心地の良い雰囲気を楽しんでいます」とのこと。この度会長が68年卒



東京競馬場の観覧席にて(2017年10月26日)

の駒田さんから、78年卒の宇野多恵子さんに交代し、会の若返りを目指していますので、今までにない世界と一緒に楽しんでみようという方の参加をお待ちしております。

年会費は2000円ですが、お試し参加も歓迎ですので、気軽な連絡をお待ちしております。

行ってきました錦秋の京都 2022 リユニオン&ホームカミングデー・レポート

# やっぱりリアルはよろしおすなあ

待ちに待ったリアルに会えた一日。2022年11月13日(日)「同志社創立147周年記念リユニオン &同志社大学ホームカミングデー2022」が雨の中、#3年ぶり にリアル開催されました!

## 土砂降りのキャンパスで

3年ぶりのリアル開催となる「リユニオン&ホームカミングデー」が幕開け。今年にはリアル開催に加えオンライン中継も実施。開会式と学長講演は校友課 YouTubeにてLive配信という、ハイブリッド開催と



植木学長の講演には多数の校友が詰め掛けた(明德館21番教室)

なりました。

栄光館での開会式は荘厳なパイオルガンの音色で幕開け。讚美歌、村上みかキリスト教化センター所長による聖書朗読と祈禱、永眠者への黙禱の後、新島襄作による寒梅詩と続きます。時節柄、声は出さずに心の中での黙唱・黙読となりました。

八田英二総長・理事長による式辞の後、植木朝子学長、松岡敬校友会会長、三好三恵子同窓会会長から歓迎の言葉。特に松岡校友会会長は、コロナ禍中の学生の苦しい生活について言及し、これまでの支援への感謝とともに、校友会と学生、未来の学生たちへ支援のループの

広がりは新島襄の志の継承にも繋がること発言、より一層の支援・寄付をアピールしました。

続く恒例の大集合写真撮影では東京校友会の旗を前に横山会長、神内副会長、青木代表幹事などおなじみの顔が集合。

栄光館を一步出ると、外は土砂降り。首都圏仲間での記念撮影はせめて屋根のある所で、彰栄館まで向かいましたが、傘の陰に隠れてか何人もの主要メンバーが行方不明に。ただ偶然居合わせた別のカメラマンのおかげで、いつもは撮影側の新田東京ジャーナル編集長が収めた貴重なカットが右の写真です。



首都圏からの参加者(彰栄館入口)

その後は受付を済ませ明德館21番教室へ。植木学長による「大学の新たな取組―学びのかたちの新展開を中心に―」と題した講演がなされました。

良心館での卒業生交流会は、感染予防ということで、ソフトドリンクを黙飲、交流は隣会場で要マスクという少々寂しい環境下でしたが、久しぶりのリアルでの交流が実現できました。昼食は良心館地下の食堂で。レシートにはカロリーだけではなく野菜や塩分についての点数まで表示され、さすが時代が変わったなあと感じ。一方、感染





学生ガイドの説明を聴くキャンパスツアーの参加者たち(クラーク記念館)

予防のための仕切りは透明感のまったくないアクリル板で、こういう中で黙食を余儀なくされている学生たちの大変な日常に同情も禁じえませんでした。

**来年はぜひ晴天・対面で**

雨の影響で通常は人気の野点やキャンパス内も少し閑散と。ただし今年には新しい試みとして、キャンパススタンプラリーを実施。5か所スタンプを集めると校友会オリジナルグッズのハンドタオルと絵葉書、ピンバッジという豪華3点セットが人気を呼び、多くの校友たちが楽しんで参加していました。もちろん、私も参加。記念品の同志社ネーム入りサーモボトルと合わせて、嬉しい記念となりました。



Meahula Nohealaniの演舞(良心館地下広場)

キャンパスツアーには少数ながら来年度の受験生家族や子どもが通う保護者なども参加、卒業生に加え様々な方が学生の案内でレンガ造りの歴史的建造物を楽しく回っていました。

良心館地下ではグリークラブの歌声や応援団の演舞が続きました。観客には感染予防のため心の中で歌うよう注意がありましたが、やはり懐かしさのあまり口ずさみ、声が漏れてしまう校友も多かったようです。

次年度については、2023年11月13日(日)開催予定。次年度はまたぜひ対面で、そして願わくば晴天での実施を祈り、その日を待ちたいと思います。

文責/須永由美子(85年・法)  
写真/新田博伸(77年・法)

## 現役大学生も活動を開始

善意通訳 同志社SGG Joeの会 東京&京都

事務局長 安井昭夫(67年・法)

当会(代表・説田幸弘)は全国に約90団体存在する日本政府観光局傘下のSGG(Systematized Goodwill Guide)の中で単一大学のOB・OGのみによって設立された日本初

のSGGです。2019年の一年間で22ヶ国からの訪日外国人観光客を延べ日数165日、567人、関東、関西で観光案内するという実績を上げました。しかし2020年2月以降、



新会員の現役ESS部員とOB

新型コロナウイルスのパンデミックにより活動を中断。日本政府による「個人観光客の受け入れ再開」に伴い、昨年11月より活動を再開するに当たり、現役学生のESS部員34名が新たに当会に加入。早速11月12日にイギリス在住のインド人女性医師とインド在住の家族2人を伏見稲荷大社、祇園、清水寺などに案内しました。

こうして、OB・OGと現役学生が同じ組織の一員として、関東、関西全域をカバーする日本唯一の独自の



ズーム研修会での1コマ

な組織として活動を開始。現役学生の活動は11月13日朝日新聞朝刊他7つの主要Webネットワークとして、写真入りで全国に報道されました。

### 多才な人材による研修活動と善意通訳観光ガイド

ガイド活動の中断中は山本宏喜運営局長の主導でZoom研修会を継続して実施しました。多才な講師陣による研修で、今後のガイド活動が期待されます。



連載  
連企

# 片桐家同志社五代記

その四十二

文／片桐陽(67年・工)

私の所属している教会は、京都市左京区神殿町にある「京北教会」であることは、本連載の第36回でもお伝えした。高校生から大学生の頃は同世代の教会員も多く、青年会を組織し修養会も行った。

山科の「一燈園」は、1904年(明治37年)に思想家であり宗教家であった西田天香が創設した場所である。自然にかなった生活をすれば、人は何物も所望しなくても、また働きの金に換えなくても許されて生かされるという信条の下、常に懺悔の心をもって、無所有奉仕の生活を行っているところだ。

この場所を借りて一泊泊まりで修養会をした折のことである。時間もたっぷりあるので、青年会の在り方について活発な話し合いを展開したが、その中で一度ボランティアをしてみようと言う話が出た。

ボランティアと言っても数々あるが、若い会員ばかりなのだから、労働奉仕をしたらどうかということになり、検討の結果、琵琶湖



第二びわこ学園での階段作り

畔の「第二びわこ学園」に行くことが決まった。

この施設については、「びわこ学園の歩み」から引用させていただくと、滋賀県立近江学園での療育実践の結果、「医療と教育の機能をもつ重症心身障害児(以下「重症児」と記述)施設が必要である」ということから

病院の機能を持った児童福祉施設として1963年(昭和38年)4月に「第一びわこ学園」が誕生し、更に三年後の1966年(昭和41年)2月に「第二びわこ学園」が開園したとのこと。さて、第二びわこ学園に出掛けたのは確か大学二年生の頃で、開園前の寒い時期であったが、我々に与えられたミッションはコンクリートの階段作りだった。

一週間泊まり込みで、初めての階段作りである。プロの職人に指導していただいたとしても、大変な仕事であった。まずは、階段を作る場所の斜面整備から。それが仕上がるとそこに二十段ほどの階段状の木組みをし、セメントを流し入れて階段が出来上がる。

連日朝から晩まで働くのだが、一番大変だったのは、セメント袋を運ぶ仕事だった。今ではセメント袋は25kgになっていくが、当時は何と二倍の50kgもあり、最初はどのように担ぎ上げればよいのか分からず困った。でも終わる頃にはコツをつかむことができて、細い身体だったが何とかが担ぎ上げられるようになった。

昼間の労働に加え、夜は一緒に参加した仲間と話し合うのだが、これが結構真剣な討議になり、毎晩夜遅くまで話し合った。「ボランティアとは何か!」皆で様々な意見を出し合ったが、結論が出たのかどうか忘れてしまった。

この歳になって、ボランティアとは、人が喜ぶ姿を見て、自分が喜べることだと私は思っている。

## 今出川・京田辺四季



同志社東京校友会常任幹事

片岡信雅(71年・文)

### イタリア語を通して人間と社会を考える

私は文学部社会科学科産業関係学専攻に入学しました。この学問の特徴は「仕事を通して人間と社会を考えるユニークな学問」です。入学当時、その学問の深さも良さも理解していない若者でした。クラブ活動は陸上競技同好会に入会。練習だけでなく地方出身の仲間が集まり和気あいあい会話し人柄を知り自分なりに吸収できた良さがありました。印象として一番残っていることは飲み会。ビールで乾杯し盛り上がったところで、先輩が当時ヒットした「思い出の渚」「ラブユー東京」を歌っていたことを鮮明に憶えています。



陸上競技同好会冬の合宿(筆者は左上)

の特徴は主語により動詞が格変化すること。ドイツ語の成績はそこそこ良かったと思います。ただ、そのときは、会社勤めをし、イタリア・ミラノ駐在勤務を命じられ、イタリア語を使うとは思っていませんでした。必死でイタリア語を学び4年間勤務しました。

授業では中條毅先生のゼミを取りましたが、先生の言葉で印象に残っているのは「厚生学専攻(当時の)は戦時労働力政策を中心とした労働力調達・培養中心であり、これによりキリスト教主義の同志社への、時の陸軍からの圧力があり、その批判をかかわした」ということです。昭和60年〜70年は学園紛争で荒れていましたが、一番授業で関心あったのは第2外国語のドイツ語でした。ヨーロッパ言語

ながら「Sbagliando S'impara」間違いますが、自分を鼓舞してくれる言葉で気に入っています。定年後、今は善意通訳同志社SGG Joeの会東京&京都でボランティアのイタリア語通訳をしております。これからもイタリア語を通して人間と社会を考え続けたいと思っています。



# 東京校友会を支える絆① ESS創部100周年記念 東京OB会

2022年11月3日(祝)

国内外から76名のESSのOB・OGが竹橋のKKRホテルに集結した。皇居から日比谷への緑を眺望し快晴。会場は笑顔があふれた。

## 参加年次の幅広く

3年振りに開催の今回も1955年卒から2020年卒の世代差65年にまたがる幅広い卒業生の参加に恵まれた。ESSのOBでもある同志社総長・理事長八田英二先生、理事・校友会副会長の中村友一様はじめ最年少が現役学生ESSプレジデントの中野美穂さん。中野さんよりESSの現況について報告を受けた。東京校友会からは青木重之代表幹事の出席を得た。

向坂育久子さん(77年・文)の司会進行は絶妙。浅井健太タイムキーパー(10年・法)との連携で、多彩で多くのプログラムをテキパキと進めるすばらしい対応。



国内外から80名近いESSのOB・OGが「創部100周年記念東京OB会」に集結

## 格調高い プログラム

当会の特徴は毎回参加者が会場に到着次第、カクテルタイムがあることで、スピーチや講演の前の「お待ちを」を回避している。

●中井陽子さん(88年法・弁護士・弁理士)が開会を力強く宣言。

●中村友一大先輩がESSの発展と参会者のGood Healthを祈念し流暢に「Cheers」乾杯のご発声。

●植木朝子学長からの「大学の教育理念」国際主義は、まさに



八田英二総長・理事長の祝辞

ESSが体現されていて誇りに思う」との祝電が披露された。米国サンノゼの道高幸彦さんからのメッセージも披露された。講演やプレゼンテーション

100周年記念にふさわしく盛りだくさんの発表・挨拶・演奏を楽しんだ。

●八田英二先生は祝辞の中で同志社大学や諸学校を含む全体の現況についてご報告。高野連会長時代やご自身のご経験等にも言及され、一同大いに感心し身を乗り出して聴き入った。

●同志社オリジナルソング『あなたの愛がとめどなく降りそそぐ』新島襄先生に捧ぐ』がシンガーソングライターの伊藤誠さん(76年・商)によって披露。

●『ESSで学んだジャーナリストの基礎』と題して塩崎隆敏さん(89年・文)がNHKでの特派員時代やキャスターでの経験を講演。現在はNHK放送研。

●在米55年の佐野吉弘さん(70年・経)がロサンゼルスより来日参加。英語によるNativeスピーチは流石で一同を魅了。

●初参加者の紹介を行った。58年・経の大先輩から卒業2年目で海外とのビジネスに活躍中の石田瑛さんまで14名だった。

●最後に並河和之さん(69年・経)と鈴木良之さん(65年・経)のリードにより、全員でESSソングとカレッジソングを斉唱して再会を約した。

文責／近藤義彦(69年経)



シンガーソングライターの伊藤誠さんが熱唱



## ◆東京校友会を支える絆② 関東同志社スポーツユニオン総会

3年ぶりの総会開催。コロナ禍を考慮し、異例の懇親会なしでしたが、桐山輝夫(76年・経・ラグビー部OB)新体制が始動しました。

10月23日(日)学士会館において、3年ぶりに関東スポーツユニオン総会が開催されました。当日は、京都スポーツユニオ



宇山賢さんをはさんで 港副会長(左)と小山常任幹事

杯直前耳より情報」のビデオインタビューや、東京五輪フェンシング金メダリストの宇山賢さん(14年・商)とフェンシング部OG七條千恵美さん・佐藤恭子さんのトークセッションなど。コロナの影響を考慮して懇親会はありませんでしたが、大盛況のうちに終了しました。  
文責/青木重之 (78年・経)

ン本部の藤原新会長も出席され、総勢102名の参加で盛大に開催。桐山関東スポーツユニオン新代表のご挨拶や活動報告に続き、東京校友会を代表して、港副会長から桐山新代表に、関東開催全国大会出場18クラブに支援金を贈呈しました。第2部は、中西哲夫さん(92年・経・元Jリーガー)の「W

## 第7回親睦ゴルフコンペ開催! やっぱり強かった!



## 達人豪腕揃いの東京40会

2022年10月4日(火)、絶好のゴルフ日和の下、千葉の太平洋クラブ市原コースで第7回親睦ゴルフコンペが開催された。コロナ対策には万全を期した。

18ホールをプレイしたが、コンペ競技の成績判定は前半の9

ホールのみを対象とした。プレイ後の集計待ち時間をなくし、密にならないよう、成績発表のパーティーも見送る等の対策が講じられた。

総勢56名が集い、過去7回の大会の中で最多参加者数を記録



天候に恵まれたスタート前の参加者の一部

した。年次会やクラブの仲間がチームを組んで熱戦を繰り広げた。新ペリア方式での競技でチーム戦の優勝は荒西昭さん、廣部慎三さん、田中徹也さん、説田幸弘さんからなる東京40会。準優勝は嶋田哲さん、廣田陽三さん



チーム優勝の東京40会のみなさま (左から廣部さん、説田さん、田中さん、荒西さん)



港副会長から表彰される個人戦優勝の荒西さん(左)

ん、港章さん、齊藤哲也さんの50会A。3位はゴルデンベアズ。個人戦優勝は荒西昭さん、準優勝は浅田敏文さん。ベストグロはプレーの中川勝博さん。  
第8回親睦ゴルフコンペは本年10月5日(木)の予定です。  
文責/近藤義彦(69年・経)





連続得点でチームに勝利をもたらした中井 (9月18日/対京産大戦/於・立命館大学大阪 いばらきキャンパス)

# バレーボール部 (男子) 秋季リーグ関西ベスト4

勝ち切れない試合が続いた宮野組も春から成長を遂げた。強豪校にも果敢に挑み、関西ベスト4で締めくくった。



試合終了後、抱きしめ合いながら喜ぶ選手たち(同上)

## 悔い残る春

9月10日から10月23日にかけて行われた2022年度関西大学バレーボール連盟男子1部秋季リーグ戦。10位で終了した春の悔しさをバネに挑んだ秋は強豪相手にも互角に戦い、関西ベスト4の称号を手にした。

チームを率いるのは2018年に春高優勝を果たした洛南高校でスタメンとして活躍した宮野陽悠河(心理4)。春は相手チームの勢いに押されて敗北することが多かったため、オフシーズンでは密にコミュニケーション

ョンを取ることもやむを得ない雰囲気づくりに注力し、チームを改革した。

## 接戦制す

上位リーグに進出できるのは6チームが所属する予選ブロック内で上位3チームのみ。同志社と京産大は3戦目終了時ともに1勝2敗であり、4戦目の対京産大戦は上位リーグ進出をかけて

白熱した戦いが繰り返された。セットカウント2-2で迎えた最終セット。一進一退の攻防が続く中、先にリードを広げたのは京産大だった。9-11の場面で流れを変えようとタイムアウトを要求するも、直後にサーブスエースを決められる。しかし、10-13の場面で宮野と同じ洛南高校出身の中井洋杜(心理2)が真骨頂を見せた。相手ブロッ



主将でリベロの宮野 (10月15日/対大産大戦/於・天理大学体育学部キャンパス)

カーに臆することなく、レフトからの4連続ポイントで逆転。その後デュースにもつれ込むも、最後は相手のアタックがわずかにアウトになり、16-14で試合終了。選手たちは抱き合いながら喜びを分かち合った。「集中力を切らさず、最後まで諦めないで戦い抜けた」(宮野)。この白星で上位リーグ進出へ王手をかけ、予選最終戦の対大産大戦を制して上位リーグ進出を確定させた。

## 強豪相手にも健闘

上位リーグでも上々の滑り出



ブロック賞を受賞した伴(左) (10月22日/対立命大戦/於・大阪体育大学第4体育館)

しを見せる。初戦は春王者の天理大相手に主導権を握り、順調にセットを連取。追いかける展開となった第3セットも終盤に逆転し、ストレート勝ちを収めた。しかし、その後は強豪相手に苦戦を強いられる。関学大、立命大、近大を相手に敗北し、関西4位で締めくくった。個人ではブロックで11得点を挙げた最髙学年の伴(商4)がブロック賞を受賞。「最後までいいものが取れた」と笑みを浮かべた。

宮野は今季を振り返り、「試合を通して成長できたリーグだった」と語った。最終戦で優勝争いすることはかなわなかったが、劣勢でも楽しむ姿勢が4位という結果を導いた。

小山莉奈(法学部3年)



幹事会・評議員会レポート

11月24日(木)に2022年度第3回幹事会・第2回評議員会を開催する予定でしたが、コロナ禍の影響から東京サテライト・キャンパスのセミナールームに収容人数制限があり、十分な参加者を収容できないため、やむを得ず書面開催。すべて原案通り承認されました。  
議題は、2022年度事業(活動)中間報告及び収支中間報告。コロナ禍により、9月まではあらゆるイベントが中止(「秋の集い」含む)となりましたが、

トピックとしましては、10月からは、親睦ゴルフ大会を皮切りに、11月の「特別協力会員の集い」も開催されました。  
以降「生誕の地碑前祭」「ビジネスパーソン特別講演会」も開催予定です。

また、会員拡大、特に現役世代や女性会員の増強を図ることや事務局機能の効率化のための運営改革プロジェクトを立ち上げ、具体化に向け検討中です。

会員の皆様には、東京校友会活動にますますのご支援・ご協力をお願い申し上げます。  
文責/青木重之(78年・経)

校友会「俳壇」

選・谷村綱夢(72年・文)

頼たたく豪雨避け得ぬ稲穂かな

井上幸男(71年・法)

〈評〉日本の美称を「瑞穂国」、みずみずしい稲穂の実る国というように、稲作抜きで我が国の歴史、文化は語れない。曆の原点は農事暦であり、立春からの二十十日はじめ、災害への警戒事項も多い。そして、掲句も実際に稲作をした人の心情リアルに表出された佳句。刈り取り間近、眼前の倒れそうな稲穂に何とか頑張れと祈る思いが胸に迫る。

※随時募集、一回2句まで。無料。掲載句には表記の整理/添削などを行う場合があります。投句は、はかきは〒104-0061 中央区銀座1-15-7 MAC 銀座ビル3F 同志社東京J俳句係へ、FAXの場合は03-5579-9729 同志社東京J俳句係へ。

たにむら・たいむ  
俳人協会/現代俳句協会  
会員 俳句結社「炎環」  
同人会会長 情報紙「定年時代」俳壇選者など。

大募集! 校友会・私の一句

「生誕の地碑前祭」案内

2月12日は同志社の創立者・新島襄先生の生誕の日であり、例年当日は、学士会館南側の「生誕の地碑」の前で学校法人同志社主催の「生誕の地碑前祭」が行われています。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、碑前祭の参加者を主催団体および後援団体の関係者のみに限定して開催されることになりました。一般の皆様のご参列はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

なお当日は11時20分より、東京校友会主催で文化事業および午餐会を開催します。文化事業は例年、地域交流の場として広く一般の方の参加を呼び掛けて開催、午餐会は校友の方のみの参加で開催しています。

今年の2月12日は日曜日で休日です。そこで文化事業として大人も子供も楽しめる「初春縁日広場」と銘打って、お祭り広場を企画しました。楽しい遊びをたくさん用意してお待ちしていますので、多数のご来場をよろしく願います。

文責/菊池論(75年・法)

編集後記

新年あけましておめでとうございませう。

新型コロナウイルス感染拡大の第8波が来ていますが、皆様、元氣でお過ごしでしょうか?

一方、コロナ対策としての行動規制は緩和されて、校友会のイベントも復活しつつあります。

東京ジャーナルでも対面での取材が不可欠な「校友訪問」や「校友の店」などの連載を休載していましたが、次号から徐々に復活させたいと思います。どうぞご期待ください。

**DOSHISHA TOKYO JOURNAL**  
2023.January. No.130 同志社東京校友会  
〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-7 MAC銀座ビル3F  
電話: 03-5579-9728  
FAX: 03-5579-9729  
発行人/横山 徹  
編集人/新田博伸  
印刷/株式会社スバルグラフィック  
<https://www.doshisha-tokyo-alumni.jp>  
mail:office@doshisha-tokyo-alumni.jp

HP会員ページ  
ログイン情報

ID=doshisha  
PASS=1875



人は寝ているあいだも、  
空気を吸っている。

だから私たちは、人の心と体に  
心地よい空気とは何かを考え続けています。  
人と空気のあいだに、いつもダイキン。

ダイキン工業株式会社